

日 本 気 象 学 会  
関 西 支 部 ニ ュ ー ス

\*\*\*\*\*  
内 容

○第16回気象サイエンスカフェ in 関西

\*\*\*\*\*  
○第16回気象サイエンスカフェ in 関西報告

関西支部は毎年、一般社団法人 日本気象予報士会 関西支部とサイエンスカフェを共催しています。

第16回の開催となった今年は2月21日（土）に、例年通り大阪心斎橋の英國屋さんにて「“ストームチェイサー”という生き方 ～アメリカの大地で積乱雲を追いかける～」と題しての開催となりました。

話題提供者は「ストームチェイサー」として活動されている翠 勇弥（みす ゆうや）さん。アメリカでスーパーセル（巨大積乱雲）を追いかけて撮影されている、唯一無二の日本人です。

今回は、大学生や民間気象会社の若手職員をはじめ若い世代の参加も目立ち、翠さんのSNSを通じて企画を知り参加された方など、総勢15名で雑談も交えながら刺激と熱量があふれる90分。

毎年約2か月間、言葉の通じないアメリカという土地で活動する中での緊張や苦悩、スーパーセルによる被害を目の当たりにした時の恐怖や悲しみ、そして何より言葉で表しきれない光景に出会えた時の感動を、貴重な映像も交えながら伝えていただきました。まさに「ここでしか聞けない話」に参加者の皆さんも引き込まれ、時間いっぱいまで盛り上がり、解散が名残惜しい限り。



サイエンスカフェの風景

私自身、日本気象学会・日本気象予報士会の活動や日頃の業務を通じて気象に携わる立場にありますが、こうした気象との向き合い方もあるのだと、大きな発見と刺激を受けました。

さらに、終わり際に参加者と翠さんが感想を伝えあいながら連絡先を交換している姿は、対面で集まり会話することでしか生まれない刺激や繋がりに満ちた光景でした。

「タイパ」や「コスパ」が重視される世の中で、オンラインという非常に便利なツールを使うことも重要ですが、サイエンスカフェでは今後もこうした対面での繋がりと熱量を大切に、若年層や気象への関心が高くない方々にもさらに広げたいと改めて感じた次第です。（文責：常任理事 引地慶）